

全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。100:2 喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。100:3 知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。100:4 感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。100:5 主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。

今年に限ったことではありませんが、おそらく今日からの3日間で、いくつかの神社や寺には300万人以上が訪れます。日本全国では、約8000万人がこの3日間に一つ、あるいは二つ以上の神社や寺を訪れ、色々なことを願います。それに比べると、私たち教会の元旦礼拝参加者は少ないです。しかし、大切なのはどれだけ多くの人が集まったかでもなく、集まった人々が何を願ったかでもありません。誰を拝み、誰に向かって願い事をしたかが重要です。今日は2014年の最初の礼拝なので、私たちクリスチャンは誰を拝み、誰に向かって祈るのかを学び直して、新しい心で今年の礼拝を始めましょう。

I. なぜなら、主は創造主だからです

私たち人間にはそれぞれ名前があります。同じように、神と呼ばれるものは世界中に数え切れないほどありますが、クリスチャンが信じる神には「主(しゅ)」という名前があります。「主」には「存在する」という意味があります。主は太陽や月や星でもなく、山や大木でもなく、人間でもなく、人間の手で造られた偶像でもなく、宇宙が造られる前から存在していた本物の神です。この詩篇の作者も主を信じていました。主は人間を含めた天地万物を、無から26日間で造りました。主が天地万物を創造した時、すべてのものは良い状態でした。人間は神のようにきよく、神についての完全な知識を持っていました(創世記1:26)。人間は神と共に生き、完全にきよい状態で神に仕えました。神に仕えることは人間の喜びでした。

しかし、創世記3章が記録しているように、悪魔に誘惑され、神の戒めを破った瞬間に、人間の最初の両親はきよさと神についての完全な知識を失い、罪に汚れ、神の祝福の中から罪の暗闇へと迷い出しました。二人は神の罰を恐れるようになり、神を礼拝することができなくなりました。それ以来、すべての人は生れながら罪に汚れ、神の敵になりました。神のことが見えなくなりました(神のことを正しく理解できなくなりました)。神との間に罪という壁ができてしまいました(イザヤ59:2)。肉体的には生きていても、地獄で永遠の罰を受ける霊的な死人となりました(エペソ2:3)。

しかし、私たちはこの詩篇にすばらしい慰めを見出すことができます。この作者は神を主と呼ぶことで、神がイスラエル人との間に恵みの契約を立てた方であることを強調しています。神はアブラハムを選び、「あなたの子孫から《人間を罪の報いである永遠の死から救い出す》救い主を生まれさせる」と約束しました。それはアブラハムや彼の子孫がふさわしかったからではありません。それは神の恵みでした。ですから、作者は5節で「主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。」と書きました。主も出エジプト記の中で、「《私》主はあわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富んでいる。」とモーセに自己紹介しました。(34:6)。

II. なぜなら、主はキリストによってすべての人に罪の報いからの救いの道を備えたからです

聖書を注意深く読み進む時、私たちは色々なところで人間に対する神の恵み、愛、慈しみ、憐れみ、真実を見出します。しかし、それらが最も鮮明に示されたのはキリストの生涯と活動によってでした。神は御ひとり子イエスを与えるほどに世の人々を愛しました。イエスは神の御心に完全に従い、すべての人の代表として完璧な生活を送りました。そして、すべての人の罪を身代わりに背負って神の聖なる罰を受け、十字架上で死にました(ヨハネ3:16; 1ヨハネ4:8-10)。イエスは身代わりの死によって私たちの、いや私たちだけでなく、すべての人の罪の負債を全部償いました(1ヨハネ2:2)。神は三日目にイエスをよみがえらせて、イエスの償いが完全であり、十分であることを証明しました(2コリント5:18)。イエスはすべての人の罪の赦しを神から獲得しました。イエスが身代わりに死んだので、イエスを信じる人は誰でも、

神からの無償の贈り物として罪を赦され、永遠の命と天国でのあらゆる祝福を与えられます(ローマ 3:22)。

この作者や旧約時代の信者は、救い主を信じる信仰を通して罪が赦されることを確信していました。その信仰によって、罰を恐れず神の御前に出て、神を礼拝することができました。「私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。」と告白することができました(3節)。牧場の中で良い羊飼いによって世話される羊は平安です。なぜなら、羊たちは羊飼いによって緑の牧場や水のほとりに導かれることを知っているからです。獣などから守ってもらえることを知っているからです。この作者や旧約時代の信者も、神の恵みによって罪が赦されることによる心の平安と喜びを見出すことができました。なぜなら、彼らの羊飼い(主=救い主)が彼らを罪と死と悪魔と地獄から守ることを確信していたからです。その確信は詩篇 23 篇にも見られます。そこにはこう書いてあります。「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。主は私を緑の牧場にふさせいこの水のほとりに伴われます。主は私の魂を生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。」

III. なぜなら、喜びをもって主を礼拝することは世の人々への良い伝道だからです

詩篇 100 篇の作者は自分の信じる主がどのような方であるか、主がすべての人のために何をして下さったかを告白しました。主を信じ、喜びを持って主を礼拝しました。それだけでなく、いっしょに主を礼拝するように全地の人を招きました。その招きのことばをもう一度聞きましょう。「全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」(1,2,4節)。しかし、罪を自覚できない人がどうして罪を悔い改めることができるでしょう。そのような人は、「私には罪はない。私は地獄に落ちるような悪い人間ではない。」と主に対して高ぶります。犯した罪に心を痛めていても、「主はイエスを信じる信仰を通してすべての罪を赦す」という福音を知らない人が、赦しを願うためにどうして恐れないで主の御前に出ることができるでしょう。イエスによって示された神の愛や恵みについて聞いたことのない人が、どうして主をほめたたえることができるでしょうか(ローマ 10:13-15,17)。この作者は、既に信仰のある人が福音を宣べ伝えれば、世の人々がそれを聞いて信仰に導かれ、主の愛や恵みに感謝して、主の御名をほめたたえることを知っていました。だから喜びをもって神を礼拝しただけでなく、この詩篇や生活を通して他の人々に福音を伝えました。

旧約時代の信者が福音を忠実に宣べ伝え続けて来たので、私たち新約時代の信者は主がどのような方か、主がすべての人のために何をして下さったかを知ることができます。現代、イエス・キリストを信じる人々は色々な国にいます。既に天国にいるこの作者はそのことを喜んでいるでしょう。私たちは恐れなく主の御前に出て、主に感謝をささげ、主の御名をほめたたえることができます。イエスを信じる信仰を通して、私たちのすべての罪は無償で赦されました。私たちは信仰を通して主の子どもという地位を与えられたので、主を「天にいます私たちの父」と大胆に呼ぶことができます。何とすばらしい祝福でしょう！私たちには主を礼拝し、主に感謝と賛美を捧げるふさわしい理由があります。

今日の学びを通して、私たちは旧約時代の信者が私たちと同じ信仰告白を持っていたことを発見しました。旧約時代の信者も私たちも、主を礼拝し、主に感謝し、主をほめたたえ、主に仕える同じ理由を持っています。イエスを信じる信仰を通して、主は私たちに天国への唯一の道を備えました。信仰による罪の赦しによって、私たちは死後に恐れなく主の裁きの席に出ることができます。そのような祝福が与えられているのですから、私たちは目移りして他の神々のところに行く必要がありません。私たちはこの新しい年も喜びをもって主を礼拝しましょう。そして、いっしょに礼拝するよう世の人々を招き続けましょう。天地万物の造り主、父と子と聖霊の三つの神格を持つ唯一の神、主の守りと導きと豊かな祝福が皆さんの上にありますように。アーメン。